

「雪山入門」講座

2026/2/7-8 レポート

ワカン、スノーシューの使用感が分かり、勉強になりました

また、風が出た時のDKシェルターのありがたみも分かりました

雪はあまり好きではありませんでしたが、雪でテーブル等作ったり、装備と雪のコンディションによっては普段より楽に斜面を登り下りできるのは面白く、少し抵抗感がなくなりました N.O 記

ワカン、スノーシュー体験がとてもよかったです。ワカンはうまく使えるようになると、どこでも階段が作れるのがよいなと思いました。また、2日目は雪が柔らかく歩いていてとても楽しかったです。道中の景色が素朴な絵本の中のように素敵でした。夏とは違う山歩きの楽しさを体感でき、また機会があればぜひ雪山に行きたいと思いました。 Y.O 記

前日から大雪予報が出ている中、土合駅まで行けるのか、無事に雪山の実技が出来るのかお天気が不安でしたが、予定通り全ての内容をこなす事が出来ました。初日は、アイゼンで駐車場迄移動し、本格的な雪のテーブル作りから始まりました。ワカンとスノーシューを初めて装着しました。思ったよりも操作性が良く、急斜面でも登って行くことが出来ました。最初は慣れなかったのですが、歩き回る事でコツを覚えました。

2日目、私はワカンを使ってハイキングに行きました。

誰もいない真っ白な雪原を歩くのは、とても気持ちが良かったです。

ワカンは軽くて、小回りが利き扱い易かったです。途中、ワカンで沢を横切ったのですが、登山学校一の難易度でハラハラドキドキしました。運営委員の方がサポートしてくださったお陰で無事に渡り切る事が出来ました。身をもって支えて下さり、本当に感謝しています。最後は急登でしたが、全員が目標地点まで辿り着く事が出来ました。朝は太陽も見えていたのですが、昼前から猛吹雪になり、悪天候の中、宿まで戻ってきました。上越線が運休するなど、アクシデントはありましたが、代替手段で帰路に着く事が出来ました。

すべての講座に皆勤賞で参加出来ましたが、登山学校 29 期の最後の集大成である雪山講習が 1 番楽しかったです。この一年間、本当にお世話になりました。 E.I 記

～白銀の土合・湯檜曾川で学んだ、雪山の厳しさと仲間の温もり～

1泊2日の雪山講習に参加は見るものすべてが新鮮で驚きと感動に満ち溢れた2日間でした。

第1日：雪を知り、仲間と繋がる充実の講習

講習の始まりは、雪との「共同作業」からでした。参加者の皆さんと協力して、雪を固めて「雪のテーブルと椅子」を作成。自分たちの手で作り上げた特設テラスで一息つくと、雪山という厳しい自然の中に自分たちの居場所ができたような、誇らしい気持ちになりました。午後の講習は、まさに「雪山技術のフルコース」でした。まずはスノーシューを装着しての歩行から始まり、浮力に驚きながらワカン体験や、道具に頼らないツボ足での歩行を学びました。斜面を滑り降りる「シリセード」では、最初は恐る恐るでしたが、コツを掴むと童心に帰って大はしゃぎ！雪まみれになりながら、自然と一体になる楽しさを知りました。

さらに、避難の要となる「雪洞（せつどう）作り」、命を守るための「ビーコン探し」と、真剣な訓練が続きます。雪の性質を肌で感じ、安全に山を楽しむための責任の重さを学ぶ、非常に濃密な時間となりました。

一日の終わりは、「土合の家」の温泉が冷え切った体を優しく包み込んでくれました。湯船に浸かりながら一日の疲れを癒やした後は、お待ちかねの夕食タイム。蟹と牛肉という豪華な食事を囲み、夜の飲み会では仲間たちとの親交がぐっと深まりました。同じ志を持つ方々と語らう時間は、何よりの宝物となりました。

第2日：湯檜曾川の冒険と、勇気の尾根歩き

2日目は、お世話になった土合の家を後にし、湯檜曾川沿いに約3キロの道のりを歩むことからスタートしました。清流のせせらぎと真っ白な雪のコントラストが美しく、途中の「渡渉（としょう）」では、川を渡る緊張感に冒険心がくすぐられました。

休憩時にはDKシェルターを使用。急なお花摘みにも冷たい風をピタリと遮ってくれるその頼もしさに、「これこそ雪山の必需品だ」と実用性の高さを実感しました。

そしていよいよ、ベースキャンプから100メートルほど登り、尾根を目指します。

上り坂では昨日教わった通り、スノーシューの「ヒールリフター」を上げて一步ずつ確実に。道具の恩恵を感じながら順調に高度を上げましたが、試練は帰りの下り坂に待っていました。

目の前に広がる急な斜面。「滑ってしまうかも」という恐怖心から足がすくみ、動けなくなってしまった私を、ずっと支えてくださったのが運営委員の高木さんでした。

不慣れな私を根気強くサポートし、安全な道へと導いてくださった高木さんには、感謝の言葉もございません。ご迷惑をおかけして申し訳ないという気持ちと、その優しさに甘えさせてもらった心強さが、今も胸に残っています。

最後に：講習を終えて

この2日間で、雪山の歩き方はもちろん、装備の大切さ、そして何より「仲間と支え合うことの尊さ」を学びました。下り坂での怖さは今の私の課題ですが、それを乗り越えた先にある景色の美しさを知ることができたのは、大きな収穫です。支えてくださった高木さん、運営委員の皆様、そして一緒に笑い、学んだ皆様に心から感謝申し上げます。この経験を糧に、少しずつ体力や技術を身につけて、またこの美しい雪山にチャレンジしてみたいと思います。色々とお手配、計画、そしてご指導頂きありがとうございました。K.N 記

雪山でのさまざまな体験ができ貴重な2日間となりました。

テーブルや雪洞作りは雪を四角に切ることで簡単に効率的に作れました。ワカンには傾斜を登るコツがなかなかつかめず、小松さんにマンツーマンでご指導いただきました。傾斜に足を突き刺すイメージで足場を固めながら一步ずつ進みます。スノーシューは引きずるように歩きます。バックは苦手なので、周りこんで方向転換するといったことでした。澤藤さんが作ってくれたお汁粉、心身ともに温まりました。

2日目はいよいよラッセル体験。交代で道を作るものの、スノーシューでは登りで足場を作りやすく、ワカンとの違いを実感。一番ドキドキしたのは、川渡り。落ちないように運営委員さんに体を引っ張りあげてもらいながら、何とか渡れました。一ノ倉沢のピークへ登りきったときの達成感は感慨無量でした。シリセードも子供に戻ったような楽しさでした。宿泊先での豪華な食事、温泉ももちろんですが、登山学校、運営委員の皆さんと一緒に過ごす時間が大変有意義でした。M.K 記

1日目:テーブル・椅子作り、雪洞掘り、輪かん、スノーシュー、シリセード体験。どれもこれも初めてだったので、楽しくて、時間があるならずっとやっていたかったです。

雪洞掘りでは、間口を小さく奥深く、削った時に凸凹を作ると水が滴ってくるので、壁を通過して下に流れるようにと、懇切丁寧に教えて下さいました。ありがとうございました。

2日目:ラッセルは、大変でしたが、やってる感があり楽しかったです。川を渡るのが、スリルがあって、一番面白かったです。楽しい体験・楽しい時間は、講師の小松さん始め、運営委員の皆様の事前準備、指導、見守りがあっての賜物と感謝致しております。ありがとうございました。M.T 記